

2024年度 第3回学習困難児研究会

主催：特定非営利活動法人「すがもキッズ」

参加費無料

ご参加お申し込み
QRコード



～困っている子どもたちを地域で支援する～

後援：相模原市 相模原市教育委員会 相模原市社会福祉協議会

2025年2月8日（土） 10：00～12：00 @相模原市立青葉小学校

【テーマ】 Well-being（ウェルビーイング）ってなんだろう？

今回の学習困難児研究会は、困っている子どもたちを取り巻く環境の問題点や解決策、いろいろな角度から様々な意見や考えを聞くことができる機会になっています。下記の5名の方々に登壇していただきながら、自分自身の経験や体験、考えも出し合い「気がつける自分」になれるような研究会を目指します。この研究会を通してウェルビーイングを目指すためのキッカケになればと思います。



すがもキッズグループ代表
心理カウンセラー 西村 学

皆さん！信号がない横断歩道でなかなか渡れないという経験はありませんか？

運転中「ここ右折したいのになかなか行かせてくれない…」という経験をしたこともあると思います。そのとき、自分はどんな気持ちになりますか？「気づいてよ」「なんで譲ってくれないの？」「早くいかないと後ろの人に迷惑がかかってしまう。早くしなきゃ」そんな気持ちになりますか？では、逆に譲らない（止まらない）側の気持ちはどうでしょうか？

「自分が止まらなくても他の誰かが止まるだろう」「自分には関係ない」と思っていませんか？もしくはそもそも、渡ろうとしている人がいることに「気がついていない」のではないですか？

その気持ち「困っている子どもの気持ち」・「周りの環境」と同じです！

困っている子どもの気持ち

「気づいてよ」＝「声をあげられない」

「なんで譲ってくれないの？」＝自分の気持ちを理解してくれない

「他に迷惑がかかってしまう」＝周りを気にして助けを求められない



みんなで
「困っている子どもたち」を
取り巻く環境を
考えませんか？

周りの環境

「他の誰かが止まるだろう」＝「余裕がある誰かが助けるだろう」

「自分には関係ない」＝「親族や関係者がやればよい」

「気がついていない」＝「関わったら面倒だろう」



前相模女子大学
子ども教育学科 特任教授
学校心理士 大里 朝彦



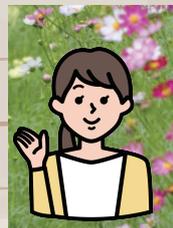
公認心理師 臨床心理士
カウンセリング心理士
林 幹夫



前相模女子大学中学部
高等部学校長
原野 聡美



ミラクルギフト代表
大橋美穂



白百合女子大学
発達心理学科在
員の

駐車スペースもご用意がありますので、

車でのご来場も可能です。

※敷地内での盗難及び事故等につきましては、一切責任を負いません。

ホームページ

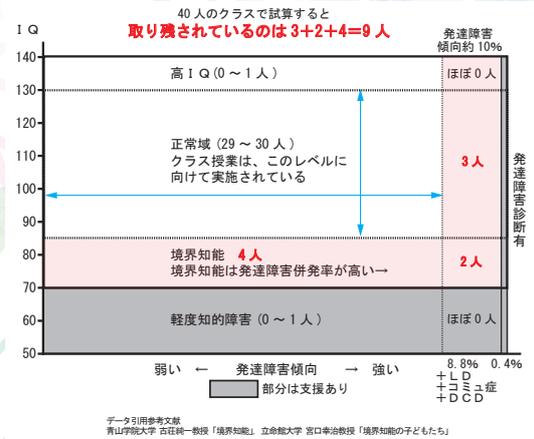
特定非営利活動法人「すがもキッズ」

<https://sugamokids.or.jp/>



支援を必要としている子どもたちは病気ではないのか？

知的障害や発達障がい、またそれらグレーゾーンについての書籍も多く出版され、教育関係者の方々には周知されていることかもしれませんが、一般の保護者や市民の方々には、まだまだ行き届いていないとは言えず、これらについての理解不足から多くの子供達やその家族がづらい思いをしています。WHO から知的障がい (IQ70 以下) が約 1 ~ 2%、境界知能 IQ を持つ子どもが約 14%と発表されています。また、文部科学省の発表では通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒が 8.8%とあります。相模原市内の小学生に置き換えると約 32,500 人のうち約 2,900 人と試算されます。その中で支援級に所属する生徒数が約 900 人通級他が 250 人程度であることから、文科省の発表に基づいて起算すると市内には約 1,750 人の小学生が取り残されていることが想定されます。また、子どもと大人の視点はまるで違います。大人にとって当たり前なことが子どもにとっては全く理解できないこともあります。子どもの気持ちに立って考えられる大人が少なくなってしまう現状があります。子ども達に幸せになってほしいと考える親の気持ちはいつの時代も同じであると考えたいですが、子どもに幸せになってほしいと思うことと、無意識のうちに自分の価値観を押し付けてしまうことは全く違う意味になってしまいます。



目標は「教育を通じ子どもたちが平等に豊かになること」

教育は世界中のどこであっても豊かになるための基本となり、必要不可欠なものです。ここでの豊かさとは心の豊かさと経済的な豊かさの両方を指しています。心の豊かさとは自分本位ではなく周りの人たちの幸せも望むことができる思いやりや、他人の気持ちに寄り添うことができる優しさです。また、経済的な豊かさは贅沢をするという意味ではなく、毎日の生活が心配することなく暮らしていける状態を指しています。経済的な豊かさは、大人が中心に考え子供に与えることになりませんが、心の豊かさは子供のころからの経験から育まれます。子供の頃の勉強や経験が心の育成に大きく影響するからです。幼少期にどのような教育を受け、どのような大人と関わって来たかがその子の将来を大きく左右することになります。だからこそ、子供に平等な教育を受けさせることはとても重要なことであり社会の責任と考えています。

～広報「すがもだより」発行しています～

過去の学習困難児研究会の広報誌を発行しています。今までのすがもキッズの活動に興味がある方は一読いただけるとより一層すがもキッズの活動を理解していただけることと思います。



【お問い合わせ】

特定非営利活動法人 すがもキッズ
〒252-0328 神奈川県相模原市南区萩藪台6-18-1
TEL: 042-813-8558 (SweetEggs 近く)
mail: enishikawa@sugamokids.or.jp



【ご協力頂いている企業・団体】※敬称略

公益財団法人斎藤茂昭記念財団 公益財団法人かながわ生き生き市民基金

株式会社 育仲社 横浜営業所 有限会社 開成図書出版 中央教育研究所株式会社 株式会社プロッサム 横浜営業所

NPO 法人 メダカのお弁当 教育開発出版 株式会社 横浜営業所 株式会社 富史産業 株式会社 ユニックス

NPO 法人 ぴあっと 株式会社 tassa 開成企業 株式会社 株式会社 明石スクールユニフォームカンパニー 横浜営業所

NPO 法人「すがもキッズ」は、皆さまに支えられて活動しております。

ご支援を
お願いいたします。

